

寒くても発生する虫



東洋産業だより



Vol. 166
2017年11月号

11月になり、いよいよ寒くなってきました。外気温が下がると暖かい時期によく見かけられた昆虫類の活動は鈍くなり、発生数も少なくなりまます。しかし、寒くなつたからと言って全く昆虫類などがいなくなると言うわけではありません。

例えば、この時期に落葉や草を一方所に集めて腐らせていると、そこからクロバネキノコバエ類が、年中温度が一定である暖かい食品工場や飲食店、工場の排水などではチヨウバエ類やニセケバエ類が発生します。また、暖かい時期にはあまり見られなかったトゲハネバエ類などの大型ハエが増加することがあります。特に、排水管等で発生するハエ類は、発育に好条件な気温や環境が整うと、冬場でも屋内で大量発生することもあります。



クロバネキノコバエ類



チヨウバエ類



ニセケバエ類



トゲハネバエ類

そのため、冬だからと言って油断するのではなく、昆虫類の調査を継続しながら、必要に応じて様々な対策を定期的に、かつ継続することが大切です。

ところで、飛翔性昆虫の調査において、捕虫器を設置したいが、電源が無い、景観上捕虫器を置くのがためらわれるといったお悩みをお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

フライヘルという商品は、これまで景観上の理由でライトトラップを設置しにくかった場所におすすめの捕虫器です。電源不要、見た目は観葉植物のように見え、捕虫器であることを感じさせず、余計な虫を誘引しないという特徴があります。また、プラント部分に殺虫成分を含みますが、常温では揮発せず、吸入の心配がないとされています。

また弊社でシヨウジョウバエを用い、強制接触を行った結果、これに接触したシヨウジョウバエは全体の約88%が死亡または、落下し受け皿の捕虫紙に捕獲されました。

さらに、食品販売店に設置した検証によると、ノミバエ、チヨウバエ、シヨウジョウバエ、クロバネキノコバエなどが捕獲されています。フライヘルに捕獲される昆虫類は、季節によって多少違いがあるものの、置くだけで効果を期待できるため手軽にできる防虫対策の一つです。今回名前を挙げたような、コバエ類でお悩みの際は、一度弊社までお気軽にご相談下さい。



飛翔性害虫用捕虫器 FLY HELL
フライヘル

フライヘルの特徴

- プラント部分にネオニコチノイド系化合物を添加
- 休憩に飛来した飛翔昆虫はすぐにホルダーに落下するため、捕虫紙で捕獲される
- 設置基準は、昆虫が飛翔するエリア5~10㎡に対して1~3台 または昆虫の飛翔ルートを遮るように2~5mにつき1台
- プラント部分に加工された有効成分の有効期間は約6カ月 ワンシーズン1~2回の交換で対応でき、捕虫紙は1ヶ月を目安に交換

今月の豆知識：食虫植物

見た目は独特ですが、育てやすく、ユニークな生態を持っている食虫植物をご存知でしょうか。その名の通り、虫を食べる植物です。夏にホームセンターで見かけた方もいらっしゃるかもしれません。食虫植物は世界で約600種類、日本には22種類が確認されています。食虫植物は、基本的に他の植物と同様に光合成を行います。栄養が乏しい土地で自生しているものが多く、光合成だけでは栄養が補えず、その栄養を補うために、虫を捕食しそれを栄養にしています。

食虫植物の中でよく耳にするものにハエトリグサがあります。細長い軍配形の葉柄の先に捕虫葉と呼ばれる二枚貝のような葉があり、この葉の内側には3本の感覚毛と呼ばれるセンサーが生えています。この感覚毛に獲物が2回以上触れるとハエトリグサは、素早く葉を閉じ、獲物を捕獲します。感覚毛は2回獲物が接触しないと、葉を閉じません。これは、獲物ではないものを感知し、無駄にエネルギーを消費するのを避けるためとされています。ハエトリグサは、獲物を捕獲すると、葉で獲物を潰し、葉から消化液で獲物を溶かし、その栄養分を吸収します。その期間は約10日で、その後は再度葉を開き、獲物を待ちます。なお1回の捕食でエネルギーを多く消費するため、一つの葉で3回程しか行かないとされています。このように、少し変わった虫を食べる食虫植物について調べてみると面白いことが発見できるかもしれません。



東洋産業株式会社

本社
岡山市北区新屋敷町3-19-20
TEL 086-2241-8080
FAX 086-2241-8094
拠点
大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢

www.to-yo-s.co.jp
(バックナンバー掲載中)